

読者の欄

最近の地質ニュースを読んで

松山での日本地質学会（91年4月）で前所長の石原舜三さんにお会いした際、「地質ニュースが面白くなりましたね」と申しあげたら、「所でもいろいろ検討しているので、編集委員会の方にも話して下さい」ということでした。正直言ってそれまでの地質ニュースはあまり読みたいと思う記事に乏しかったように思います。特殊な地方の話では、特に何か関心がないと、わざわざ読むにはわたしたちは余りに情報過多の時代にひたりすぎているようです。

本当に今年になってから地質ニュースは面白くなりました。たとえば5月号と7月号の石材特集があります。このような話題は地質ニュース以外にどこで上げられるでしょうか。研究に没頭している方々にとっては、今更石材という感じかも知れませんが、街には今や世界中の石材が氾濫しております。生活世界と地学との結びつきを考える場合には、石材は格好の接点になります。文部省では平成元年に高校学習指導要領を改訂しましたが、高校理科地学はⅠA・ⅠB・Ⅱの3本だてになり、そのうち地学ⅠAでは、「日常生活と関係の深い地学的な事象・現象に関する探究活動」に重点が置かれ、地質関係では、自然の風景、建造物と岩石、身近な鉱物がとりあげられております。わたくしはそれで高校の先生方にも地質ニュースの石材特集を紹介し、喜ばれております。風景や鉱物についても取りあげていただけるようお願いいたします。なお石材特集で気がついたことなのですが、石の「め」について解説がなかったのが残念に思いました。「め」については岩盤力学の面から世界的に

注目されており、日本でも岩盤工学者が岩石の物理的異方性と「め」との関係について優れた研究を行っております。ぜひ記事にさせていただきたいと思っております。

このほか9月号の地球環境特集も興味深く全ページ読ませていただきました。上記の地学ⅠAにも、資源（エネルギー・鉱物はか）、災害と予知、環境悪化と保全の問題が取りあげられております。

地質ニュースの読者層をよくつかむことも大切と思います。わたくしの知っているかぎりでも、コンサルタントや建設関係の会社で地質ニュースをとっている所が多いようです。今は専門の地質屋だけでなく土木屋さんも地質について知りたがっております。そうした要望に応えるのも地質ニュースの役割ではないでしょうか。たとえば月報42巻5, 6, 7号の放射性廃棄物の深層隔離特集は、外国の場合とひと味ちがったアイデアがあり、ぜひ概要を紹介したいものです。一般廃棄物の最終処分場の地質条件についても、日本の現状をふまえた上で解説してほしいと思っております。

終りになりましたが、小活字2段組の今の組み方は何とかならないでしょうか。そういうのは、わたくしの視力低下のせいなのでしょう。いちど岩波の「科学」と見比べて下さい。僅かの差ですと読みやすくなります。

以上勝手な要望をまじえて感想をつづりました。これからの地学の社会化に向けて地質ニュースのはたす役割は非常に大きいと期待しております。日常の忙しい業務と研究のかたわら編集に苦心なさっておられる編集委員会の皆様には心から敬意と謝意をささげます。

1991年12月7日

小島丈兒（元広島大学理学部地学教室）

